

若手精神看護学教員の主体的実践の一步を促す試み ーワークショップ参加者から企画者へー

○大河内 敦子¹⁾、森本 淳子²⁾、兒玉 善明³⁾、藏本 綾⁴⁾

- 1) 帝京大学医療技術学部看護学科、2) 神奈川県立保健福祉大学保健福祉学部看護学科、
3) 愛知県立大学看護学部看護学科、4) 香川大学医学部看護学科

近年、日本における看護系大学の増加に伴い、精神看護学を担当する若手教員の配置も進んでいます。一方で、着任後5年前後の若手教員は、教育・研究・臨地実習調整など多重役割を担いながら、孤立感や自己効力感の低下、将来のキャリア形成に不安を抱えやすい時期でもあります。これまでの若手教員支援は、各組織内や専門領域内で独自に行われてきた取り組みや研修受講型の受動的学習が中心であり、主体的に実践を創出する力を育む体系的支援は十分とは言えない現状もあるでしょう。

企画代表者は、精神看護学を担当する若手教員が直面する教育活動上の困難や求める支援をテーマに研究を継続しています。研究結果から導きだされた、「ピアとしてつながる場」を創ることをコンセプトに毎年、若手教員向けワークショップを開催し、これまで多くの方々の参加を得てきました。そして、精神看護学教員としての初期段階に参加者として出会い、その後企画者として加わったメンバーとともに開催する取り組みは今回で3回目となります。2026年度の企画では、若手精神看護学教員の主体的実践への一步を促すことを目的とし、参加者が学びの場を企画・実行する側へと成長するプロセスの実践をテーマとしました。

90分間のセッションでは、1.ワークショップ企画・実践の意義に関するプレゼンテーション、2.参加者から企画者へと成長した経験の共有、3.小グループでの経験共有および企画検討、4.全体共有を行います。各グループには、参加者から企画者へと成長した経験を有する若手から中堅期教員がファシリテーターとして伴走し、対話の促進と企画の具体化を支援していきます。小グループでの経験共有および企画検討にあたっては、本ワークショップでは具体的な企画案を作成することを目的とはせず、企画検討に向けての様々な準備や仲間づくりの方法など、

学びの場の企画検討に際してどのように進めていくかに焦点を当てたいと考えています。各組織で行われている取り組みや研修なども参考にしながら、自身が主体的に参加する、そして企画するためには、という観点から参加者間での意見交換を行っていきます。全体共有では、ディスカッションを通して得られた気づきや経験を中心に共有し、企画案の詳細発表は行いません。なお、参加者の皆さまが安心して意見交換を行えるよう倫理的配慮としてセッション内で共有された内容についてはワークショップ外への口外を控えることをお願いします。また、所属や氏名の開示は参加者の任意とさせていただきます。

今回は、このワークショップを経て若手教員の方々が不安や迷いを抱えながらも一步踏み出して挑戦する力を育むことを目指しており、学術集会テーマ「けっぱれ精神保健看護」が示す粘り強さと前向きな実践姿勢を教育現場から支える試みでもあります。精神看護学の教員として経験5年前後の若手教員をはじめ、若手教員育成に関心を持つ教員の皆さまのご参加を広く期待しております。

なお、本ワークショップに際し開示すべきCOIはございません。